

全電源喪失の記憶

証言 福島第一原発

■第2章「1号機爆発」

2

3月12日午前7時11分、福島第一

原発のクランブドに首相の菅直人

(64)を乗せたヘリコプターが着陸し

た。東京電力副社長で原子力部門ト

ップの武藤栄(60)、経済産業副大臣

の池田元久(70)らが出迎えた。菅が

ヘリを降りる姿を撮影した後、秘書

官や原子力安全委員会委員長の班目

春樹(62)が続いた。

「なんでベントをやらなかったんだ

」。免震重要棟へのバスに乗り込

むと、菅は開口一番、隣に座った武

藤に詰め寄った。

首相から「ベント」という言葉が

出るとすら想像していなかった武

藤は口ごもった。菅は移動中ずっと

福島第一原発免震重要棟の会議室で、菅首相(左から3人目)に状況説明する吉田昌郎所長(右奥)と2011年3月12日(内閣広報室提供)



「決死隊をつくって」

まくし立てた。そばにいた池田や班

目にも内容が聞き取れないほどのけ

んまくだった。

免震棟に着いた一行は、入の口で

放射性物質の汚染を点検する作業員

たちの列で足止めを食った。いら立

た菅は二つでも「なんで俺がここ

に来たと思ってるんだ」と怒声を

上げた。

菅と付き合ひの長い池田は「いつ

もこの菅とは訳が違っ」と感じて

いた。「現場の作業員の前で怒鳴る

なんて、最高指揮官のやることじゃ

ない」。同じ政治家として申し訳な

く思ったという。

菅は作業員らをかきわけると共に

少し落ち着きを取り戻した。

れた瞬間だった。吉田の一言で菅は

初めて自分の言葉で話す責任者が現

た。「午前9時を目標にベントを実

行した。菅は現場を指揮する吉田自身

の覚悟だった。菅にとってみれば

「ベントはやりません。決死隊をつ

くってやりません」

と、菅は現場を指揮する吉田自身

の覚悟だった。菅にとってみれば

「ベントはやりません。決死隊をつ

くってやりません」

と、菅は現場を指揮する吉田自身

の覚悟だった。菅にとってみれば

「ベントはやりません。決死隊をつ

くってやりません」

と、菅は現場を指揮する吉田自身

の覚悟だった。菅にとってみれば

2階の会議室にだざり着いた。「ベ

ントはいつできるんだ」。着席後も

わった。午前8時4分、菅を乗せ

たヘリは津波被災地の視察へ出発し

た。菅と吉田の会談は、24分間で終

了した。菅は現場を指揮する吉田自身

の覚悟だった。菅にとってみれば

「ベントはやりません。決死隊をつ

くってやりません」

と、菅は現場を指揮する吉田自身

の覚悟だった。菅にとってみれば

「ベントはやりません。決死隊をつ

くってやりません」

と、菅は現場を指揮する吉田自身

の覚悟だった。菅にとってみれば

「ベントはやりません。決死隊をつ

くってやりません」

と、菅は現場を指揮する吉田自身

の覚悟だった。菅にとってみれば

「ベントはやりません。決死隊をつ

くってやりません」

と、菅は現場を指揮する吉田自身

の覚悟だった。菅にとってみれば

「ベントはやりません。決死隊をつ

くってやりません」